



三重混声合唱団

あんだあれ70

三重混声合唱団あんだあれ70 通信

2021年度 春夏号

2021年6月1日 発行

発行：三重混声合唱団あんだあれ70

編集：広報担当(平井、小泉、牧野)

ホームページ：<https://andare70.jp>

新型コロナ禍のもとでの2020年

昨年の冬を過ぎるころからあっという間に全世界を襲った新型コロナ感染症の恐怖で世界は一変しました。あんだあれ70も練習の中止、再開、再び中止という状況で練習のない空虚感の中でステイホームの毎日でした。2020年度はあんだあれ70 通信も発行できませんでした。

昨年4月に代表が交代しました。新しい代表、副代表、各係、団員みんなが力を合わせて今後も“Andare”しましょう。

団員の皆さまへ



あんだあれ70代表 神田 憲明

2020年度は人類が経験したことのない新型コロナウィルスの影響で日常生活が一変した年でした。あんだあれ70でも対面練習の中止を余儀なくされ、団員のモチベーションを継続していくために、新たなる挑戦としてリモートレッスンを取り入れたことは大きな進展でした。

10周年記念演奏会の開催日も来年5月15日(日)と決まりました。これから本格的に練習が始まります。あんだあれ70として積み上げてきた経験と実績を確実に表現できればと思います。コロナ感染状況は今後も予想が付きませんが、感染対策をお互い確実にを行い、10周年記念演奏会が悔いのない演奏会になるよう頑張りましょう。

野上彰詩「落葉松」によせて

野上彰39才の昭和22年秋、川端康成の別荘、軽井沢でこの詩を書く。

落葉松の 秋の雨に わたしの 手が濡れる
落葉松の 夜の雨に わたしの 心が濡れる
落葉松の 陽のある雨に わたしの 思い出が濡れる
落葉松の 小鳥の雨に わたしの 乾いた眼が濡れる

バス 木村 哲美



秋の霧雨に濡れる軽井沢の落葉松林の中を歩いている。霧雨で、“私の手が濡れる”落葉松は寂しそう“私の心が濡れる”落葉松に思い出が蘇る“私の思い出が濡れる”そして自然と涙があふれてきた“私の乾いた眼が濡れる”軽井沢の霧雨に、物悲しい憂いに満ちた『らくようしょう(落葉松)』と私です。

この曲に何度も登場する“雨に”を歌う時、表現は繊細でありたい。しかも、作者の心の変化があるので、“雨に”の表現も微妙に変わるはずです。

落葉松は実に繊細で集中力が必要な“おとな”の詩です(^_^)

小林秀雄は「私は、歌詞や内容のすべてが聴衆に完全に伝わる、明るい音楽を創作の中心に据えます。そして、粗雑で軽薄な音楽を排します。」「明るい、わかりやすい音楽を、正確な技術で演奏する。内容や心は、それに乗って滲み出てくる」これが音楽です。と言っています。

そして落葉松の曲には「この曲は指定の速さを守り、大切に演奏して下さい。なお、8分音符と3連符を正確に区別して下さい」「ピアノの右手で刻む3連音符の和音は、各フレーズの詩の内容をこめて、正確に刻むこと」と注釈があります。

混声合唱曲集「落葉松」は、飛騨高原の早春、あなたとわたしと花たちと、瞳そして落葉松の四曲で構成されています。秋雨降る日。落葉松を見上げると、雨なのか自分の涙なのか、乾いた目が濡れ、心も濡れた。そんな物悲しい憂いに満ちた、しかし力強くすっと立つ落葉松の世界観に浸りながら、心を込めて歌いたい。

2021年 アンサンブルコンテスト

於：本町プラザ
2021年1月31日

- ◎ 曲目 * Super flumina Babilonis(バビロンの流れに) * わたりどり
- ◎ チーム Rosso(ロッソ)赤 Nero(ネーロ)黒 Verde(ヴェルデ)緑 Bianca(ビアンカ)白
- ◎ 順位 バビロンの流れに 1位 ロッソ 2位 ヴェルデ
わたりどり 1位 ネロ、ロッソ チームワーク賞 ビアンカ



ロッソ アルト
林 淑乃

ロッソ(赤)を選んだのはやる気を持続させ集中力を高める色だからです。難曲2曲でしたが、馬場先生とコーチの指導、そしてメンバーの情熱的なエネルギーと突き進む強さで1位獲得に繋がりました。(感謝)

三団体交流会という大舞台での発表は貴重な経験でした(感動)。いまだに脳は、バビロンの流れに支配されています(笑)。



ネーロ バス
井上正秀

コロナ禍、異例の第10回アンサンブルコンテストに、ネロ・チームのバスとして、参加させて頂きました。

「バビロンの流れに」は、ポリフォニーで、4つの異なる動きをするパートをいかに協和させるか、80歳に近い老人達も、取り組みました。

お陰様で、「わたりどり」は、お互いの顔を見ながら、比較的、リラックスして、楽しく、歌うことができました。有難う御座いました。



ヴィアンカ テノール
井上俊也

今回初めてアンサンブルコンテストに参加しましたが、普段とは違い良い経験ができました。少人数のため一人一人の責任が大きく合わせるのがなかなか難しかったですが、うまくハマった時には感動しました。なかなかと全員がそろって練習するのも難しくもっと練習時間が欲しかったところではありますが、今回の経験を活かして大人数でも他パートを聴いてアンサンブルを意識していこうと思います。



ヴェルデ ソプラノ
田中 薫

毎回、自分の力量の無さに落ち込むばかり。何とか音取りが出来て、ほっ。少し歌えるようになって楽しくなり、調子に乗ってまた反省。そんな私ですが、チームの皆さまに励まされ、コーチの先生方にお力添えをいただき、少しは上達したかな、幸せな時間です。ありがとうございます。

曲 目

- 倉本亜紗 春の信仰 シューベルト
- 勝野明子 オンブラ マイフ
- 星合智美 アンダルーサ グラナドス
- 白村亜紀 花のかず
- 竹とんぼに 木下牧子
- 菊池京子 ひばり 木下牧子
- 秀平雄二 英雄ポロネーズ
- ショパン
- コーチ4人による歌のアンサンブル
- サウンド オブ ミュージック
- Pf. 星合智美

新春ミニコンサート



津女声合唱団
女声アンサンブル Marimo 座
三重混声合唱団あんだあれ 70

三団体交流会

於:四日市市文化会館 第2ホール
2021年4月10日

津女声合唱団

あんだあれ 70

マリモ座



♪ いい笑顔はマスク越しでも判る ♪



音楽監督&指揮者 馬場浩子先生

1年越しの舞台は刺激的で、皆さんのモチベーションも高く、心に残るシーンばかりで素敵な一日になりました。

開催そのものも危ぶまれる時世ではありましたが、歌への情熱と感染予防に対する日々の努力、また文化庁支援金の支えもあり(支援金獲得にご尽力された皆さまに感謝)、公開交流会に方向転換できて本当に良かったと思います。

内容としても、三団体が持ち味を充分発揮できた、とても好い演奏になりました。ただ、今回の企画のコンセプトはあくまで出演メンバーが満足できるステージング。

小柴さんのコーナーでも馬場の私情大いに挟んだ内容です(星合さん素敵な映像ありがとうございました)、指揮者を変えての「いのちの歌」連続演奏や神田先生の公開レッスン等、どこをとっても出演者側本位の我が儘なプロビルでしたので、お客様の反応が気になるどころでした。

結果的には、多くの方々から好意的な感想をお聴きすることができ、ほっとしています。寧ろ普段の演奏会とは異なる内容に共感したり、興味深く聴いてくださったことは、嬉しい誤算でもありました。

うたおにさん、神田先生はじめ稲葉先生、伴剛一さん等交流会実施を聞きつけ、駆け付けてくださったことも大変有り難かったです。論客の稲葉先生、伴さんからは「あっという間に時間が過ぎた。大変気持ちの良い演奏会だった」とご高評をいただきました。

何より、皆様のご家族、ご友人が、音楽を共有できる素晴らしい空間を創ってくださったので、劇場の温度が高まりました。出演者が客席に座ったことも効果的だったと思います。

演奏は「息づかいがいのち」です。舞台と客席の空間で「息」のキャッチボールができたとき、この上ない至福の瞬間が生まれます。ナマの舞台、ナマの演奏でしか体感できない貴重なキャッチボールを存分に堪能することができ、交流会は大成功でした!!

でもまだまだやれる!演奏もチームとしての動きも・今回の成功を糧に歌にも笑顔にも益々磨きをかけ、「10周年記念演奏会」という目標に向かって前へ、前へ進みましょう♡

三団体オールメンバー



小柴先生追悼



勝野明子コーチのコメント



コロナ禍の中 演奏会が行われ、出演者全員がしっかり感染対策をして無事に歌うことが出来、お客様にも聴いて頂け、とても素晴らしい日になったと思います。

今回、初めてあんだぁれにて「いのちの歌」の指揮をさせていただき、混声合唱の音楽を表現する難しさや、全員の歌声が上手くまとまり、混声ならではの合唱・ピアノ・指揮の三つが同じ方向を見ている演奏が出来た時の楽しさ、感動を知りました。まだまだ未熟な勉強中の指揮に合わせて歌って下さり、感謝しています。ありがとうございました。

オペラ「おしち」に参加して

バス 小泉義夫



お七公演から、早くも3ヶ月になろうとしている今、押入れからその時の資料を探し出してみました。配布された手に余る大判の楽譜、音源のCD、そして、男声の楽譜を市販の音楽帳(五線譜)に模写した手書きの資料、歌詞だけをWordで整理したA4の資料。コロナ禍の自己自粛で思うように練習に参加できなかった中で、少しでも皆様に追いつけるように用意した資料です。

根気強く音取をご指導頂いた柴田先生、指揮の松井先生の情熱溢れるご指導、常に全体進行に気を配られていた馬場先生。また、仲間から受けた気配りなどいろいろな場面が思い起こされます。そして、自分なりに精一杯歌い切れたという高揚感と満足感。素晴らしい体験でした。

根気強く音取をご指導頂いた柴田先生、指揮の松井先生の情熱溢れるご指導、常に全体進行に気を配られていた馬場先生。また、仲間から受けた気配りなどいろいろな場面が思い起こされます。そして、自分なりに精一杯歌い切れたという高揚感と満足感。素晴らしい体験でした。

ソプラノ 今村万里子



手書きの楽譜は見辛く、総て暗譜。LINEで送って下さる音源で、ひたすら練習しました。

楽譜を頂いた時は、歌えるか心配でしたが、練習を重ねるにつれハーモニーが出来上がる変化が楽しくもありました。

馬場先生の「やれば出来る・歌うことへの情熱」のもとご指導いただけたこと、みなさんと一緒に歌えたこと、大きな感動と充実感でいっぱいです。ありがとうございました。



編集後記

今回のあんだぁれ通信発行の企画が、平井広報担当から出された時には、できるんだろうかと半信半疑で、ただ平井さんの提案に従っての参画でした。印刷の版下作りの経験がある牧野さんが加わってくれたことはとても心強いことでした。

企画内容の姿が現れてくるに従って、ご協力いただいた皆様の心のこもった出稿の一つ一つの想いに感動しきりでした。あんだぁれ団員の皆様は実に多士済々、そしてやはり最も心に沁みたのは、馬場先生の一文でした。

この一年のいろいろな思いが脳裏を巡り、皆さまとの素晴らしいご縁に感謝します。

(広報担当；小泉義夫 記)